中国・紫禁城の秘宝、大公開。

日中国交正常化 40 周年記念

地上の天宮 北京・故宮博物院展

ち じょう てん きゅう ぺ きん こ きゅう はく ぶつ いん てん

The Palace of Heaven on Earth: Works from the Palace Museum in Beijing

Exhibition Commemorating the 40th Anniversary of the Normalization of Diplomatic Relations between Japan and China

［プレスリリース（報道資料）］

2011.4.21 版

このたび北京・故宮博物院の深いご理解と全面的なご支援により、日中国交正常化 40 周年記念「地上の天宮（てんきゅう）北京・故宮博物院展」を開催するはこびとなりました。

北京・故宮博物院は、かつて紫禁城（しきんじょう）と呼ばれ、1368 年から約 550 年にわたり中国を統治した明・清王朝のうち、24 人の歴代皇帝が居住した世界最大規模の宮殿で、約 180 万点にのぼる膨大な作品を所蔵しています。

本展では、后妃や宮女など故宮に生きた女性たちの知られざる波瀾万丈の生涯とそのまなざしをテーマに、絵画、工芸、服飾、宝飾などの国家一級文物を含む宮廷ゆかりの名品約 200 点を紹介いたします。

ラストエンペラー・溥儀が城を出た紫禁城の北の出口・神武門は、故宮（＝過去の宮殿）として、現・故宮博物院の正面入り口となった。

展覧会は「第一部　故宮の后妃たち」「第二部　故宮の子どもたち」の二部構成で「地上の天宮・紫禁城」に生きた后妃たちが紡ぎ出す宮廷文化の粋にせまります。今回出品される多くの国家一級文物の中でも特別出品として、儒教思想に基づく女性の徳と教育をテーマに九つの場面を描いた、故宮秘蔵の南宋時代の名画《女孝経図（おんなこうきょうず）》を、海外初公開します。また西太后（せいたいごう）をはじめ皇后や皇妃たちが用いた豪華な食器による清朝宮廷の食卓再現は、故宮博物院としても初の試みとなります。その他、乾隆帝（けんりゅうてい）の皇后や西太后の肖像画、西太后の書画、珍妃（ちんひ）の金印など、后妃たちゆかりの文物が出品されます。また、宮廷の子どもたちの玩具、皇子が描いた絵画、婚礼に使用した皇后の衣装などの興味深い品々も展示します。これらの作品からは宮廷の女性たちの生活習慣や風俗、文化や教育などの有り様が浮かび上がってくることでしょう。この貴重な機会に中国宮廷文化の精髄をご堪能頂ければ幸いです。

本展の開催が日中両国の文化交流の絆をさらに強固なものにしてゆく契機となり、多くの方々が中国文化への関心と理解を深められますとともに、人類の至宝がたたえる豊潤な美の精神に触れて頂ければと念願しております。

開催にあたり、貴重な文物を多数ご貸与いただきました北京・故宮博物院をはじめ、ご支援を賜りました外務省、文化庁、中国文化部、中国大使館に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、本展実現のためにご協力を賜りました全ての関係の皆様方に深く感謝の意を表します。

＜展覧会構成＞

［第一部　故宮の后妃たち］

第一章　美しいふるまい — まつりごと・たしなみ
第二章　楽しみ — 宮中の娯楽
第三章　美装 — ファッションと美容
第四章　美食 — 宮廷の食卓

［第二部　故宮の子どもたち］

第一章　学ぶ — 皇子・皇女たちの教育
第二章　育む — 皇子・皇女たちの生活

皇帝の内廷・後三宮の中心、乾清宮の玉座。「正大光明」の扁額の裏側に次期皇帝に選んだ皇子の名前を小箱に入れてかかげた。

ポスターイメージ

◇◇ 開催概要（巡回展）◇◇

① 北海道　**北海道立近代美術館**（北海道、札幌市）
7 月 15 日（金）～8 月 21 日（日）
主催：STV 札幌テレビ放送

② 関西　**関西国際文化センター**（兵庫、神戸市）
9 月 2 日（金）～10 月 10 日（月）
主催：「地上の天宮 北京･故宮博物院展」実行委員会、神戸新聞社

③ 九州　**福岡市美術館**（福岡、福岡市）
10 月 18 日（火）～11 月 23 日（水）
主催：西日本新聞社、TVQ 九州放送

④ 中部　**松坂屋美術館**（愛知、名古屋市）
12 月 3 日（土）～2012 年 1 月 22 日（日）
主催：松坂屋美術館、中日新聞社

⑤ 四国　**愛媛県美術館**（愛媛、松山市）
2012 年 2 月 10 日（金）～3 月 18 日（日）
主催：愛媛県美術館、愛媛新聞社、南海放送

⑥ 東京　**東京富士美術館**（東京、八王子市）
2012 年 3 月 29 日（木）～5 月 8 日（火）
主催：東京富士美術館、朝日新聞社

［全会場共通］
後　援：　外務省、文化庁、中国文化部、中国大使館
特別協力：　北京・故宮博物院
協　力：　NHK エデュケーショナル、ヤマトロジスティクス
企画協力：　黄山美術社
企　画：　東京富士美術館

THE FORBIDDEN CITY「紫禁城（故宮）」から
民衆に禁じられた宮殿

THE PALACE MUSEUM「北京・故宮博物院」へ
民衆に公開された宮殿博物館

[紫禁城の名前の由来]

古代中国では、天帝（てんてい）の都は天の中心にあって不動の北極星に位置すると考え、その宮殿を紫微垣（しびえん）と呼びました。「紫禁城」の名前の由来は、地上の紫微垣である「紫宮」と、庶民の立ち入りを禁じた「禁地」を重ねた「紫宮禁地」の省略であるとされています。

[歴史]

明朝（1368～1644 年）第 3 代永楽帝が 1406 年に造営。現在の宮殿は多くが清朝(1644～1912 年)の時代に修復・建造されたものです。ラストエンペラー・溥儀が紫禁城を退去し、「故宮」と呼称が変わるまでの約 500 年間に 24 人の皇帝が居住しました。
故宮博物院は 1925 年にオープン。

[面積]

南北 961 メートル、東西 753 メートル、敷地は 72 万平方メートル（東京ドーム約 15 個分）の規模を誇ります。高さ 10 メートルの城壁に囲まれ、その外に幅 52 メートルの濠がめぐらされています。

[部屋数]

俗説では紫禁城の部屋は「九千九百九十九半」とされます。天宮が一万室から成るため、地上の紫禁城は半間分だけへりくだったのだというのです。現在の故宮博物院の建物の数は 980 棟、部屋数は 8700 室にのぼります。

[故宮のテーマカラー]

黄瑠璃瓦の屋根と朱色の壁が故宮のシンボルです。黄色は土に属し中央を指し、赤は盛んな光を示し南を指すという意味がこめられています。また「黄色」は皇帝の勅許なしには用いることができない「禁色」でした。

[所蔵品] 約 180 万点の文物を所蔵。
[世界遺産] 1987 年には、ユネスコ世界遺産に登録されました。
[来場者] 年間 600 万人～800 万人の来場者を迎えています。

景山公園から見た故宮

南宋の名画・海外初公開！

出特品別

千年の絵巻　五百年の都

現代の全ての女性に贈る王朝文化の精華

必見！

故宮秘蔵の南宋の名画・海外初公開！

［中国国家一級文物（国宝）］　《女孝経図（おんなこうきょうず）》巻（部分）三才章　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 27A-B］

※本作品は東京展のみ、全９図を展示予定。各巡回会場では、作品保存上の理由により、会場毎に場面を変えて１図ずつ展示予定です。

▲各場面図版

［中国国家一級文物（国宝）］

《女孝経図》巻／女性の立ち振る舞いを描写した南宋絵画の名作　南宋　北京•故宮博物院蔵　［出品 No. 27A-B］

『女孝経』全 18 章の前半 9 章の内容を図解形式で表している。人物の姿は荘重で淑やか、物腰は作法にのっとり、母儀、賢明、仁智など封建女性が守るべき立ち振る舞いを生き生きと描写している。各段の図の後に墨書による「女孝経」の原文が対応している。宋代美人画の傑作である。

▼絵巻全体図

全て 北京･故宮博物院蔵

※本プレスリリースに掲載の作品は、作品保存上の理由により、会場によっては展示されない場合があります。

［出品 No. 23］

［出品 No. 27A-B］

［出品 No. 32B］

［出品 No. 42］

［出品 No. 57］

［出品 No. 65A］

［出品 No. 77］

［出品 No. 173］

［出品 No. 174］

［出品 No. 176］

［出品 No. 177］

［出品 No. 188］

［出品 No. 190］

［出品 No. 191］

［出品 No. 193］

［出品 No. 205B］

［出品 No. 233］

［出品 No. 235］

［出品 No. 236］

中国国家一級文物を含む約 200 点の華麗な宮廷文物で「地上の天宮」を再現

（日本の国宝に相当）

「地上の天宮」―代表作品紹介

初春［出品 No. 80-8B］

春［出品 No. 80-2E］

春５月［出品 No. 80-9E］

初夏［出品 No. 80-11F］

仲夏［出品 No. 80-12C］

盛夏［出品 No. 80-3F］

初秋［出品 No. 80-4A］

仲秋［出品 No. 80-7D］

晩秋［出品 No. 80-5B］

冬［出品 No. 80-10C］

冬［出品 No. 80-6D］

冬［出品 No. 80-1A］

《胤禛妃行楽図》軸／后妃たちの四季折々の余暇の図

清　宮廷画家　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 80］

后妃たちが余暇をすごす四季折々の情景12幅が描かれている。細密で色を厚く重ねる画法で、豪華な美と完璧な美しさを表し、また宮廷女性の最新流行の服飾や髪型、家具や陶磁器などに至るまで迫真の写実で再現している。

※本プレスリリースに掲載の作品は、作品保存上の理由により、会場によっては展示されない場合があります。

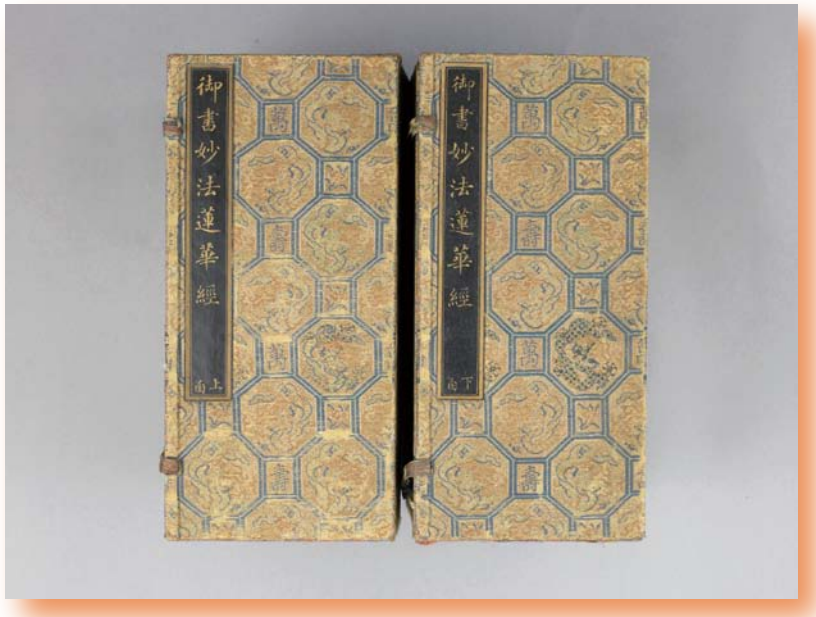
《孝賢純皇后朝服像》軸／乾隆帝皇后の肖像

清　北京•故宮博物院蔵　［出品 No. 2A］

朝服（礼服）を着た孝賢純皇后の肖像。雍正５年（1727）、皇帝の命により15歳で第４皇子・弘暦の正妻となり、弘暦が乾隆帝として即位すると皇后となった。本作は皇后に封ぜられた24歳の時に描かれたもの。乾隆帝とは互いを尊敬しあい仲の良い夫婦であったと伝えられる。

《乾隆帝及妃威弧獲鹿図》巻／乾隆帝の鹿狩り図（部分）

清　北京•故宮博物院蔵　［出品 No. 29A］



《御書 妙法蓮華経》／乾隆帝が書写した法華経

清・乾隆 14 年（1749）　北京•故宮博物院蔵　［出品 No. 26］

慶寛《光緒帝大婚典礼全図》冊／光緒帝の大婚（皇帝の婚儀）の記録

清　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 14B］

清代では、紫禁城で大婚の典礼を行った皇帝は、順治、康熙、同治、光緒の４人だけである。本作は、光緒帝の大婚の様子が図とともに記録されており、清代の宮廷儀礼のあり様を今日に伝える貴重な資料である。

故宮博物院に残る「珍妃の井戸」

慈禧（じき）《梅花図（ばいかず）》軸／「西太后御筆」の梅の花の絵

清　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 35A］

本作は梅の幹を墨を重ねてぼかし、花は赤い濃淡のぼかしで描いている。これは輪郭線を用いない没骨という中国の伝統画法だが、同時に幹は光の効果と立体感の表現に注意しており、西洋の明暗画法の影響も窺える。右上に「寒香独占上林春。光緒甲辰嘉平上浣御筆」の題、中央上に「慈禧皇太后之宝」朱文方印がある。

金龍紐（きんりゅうちゅう）「珍妃之印（ちんひのいん）」／珍妃の金印

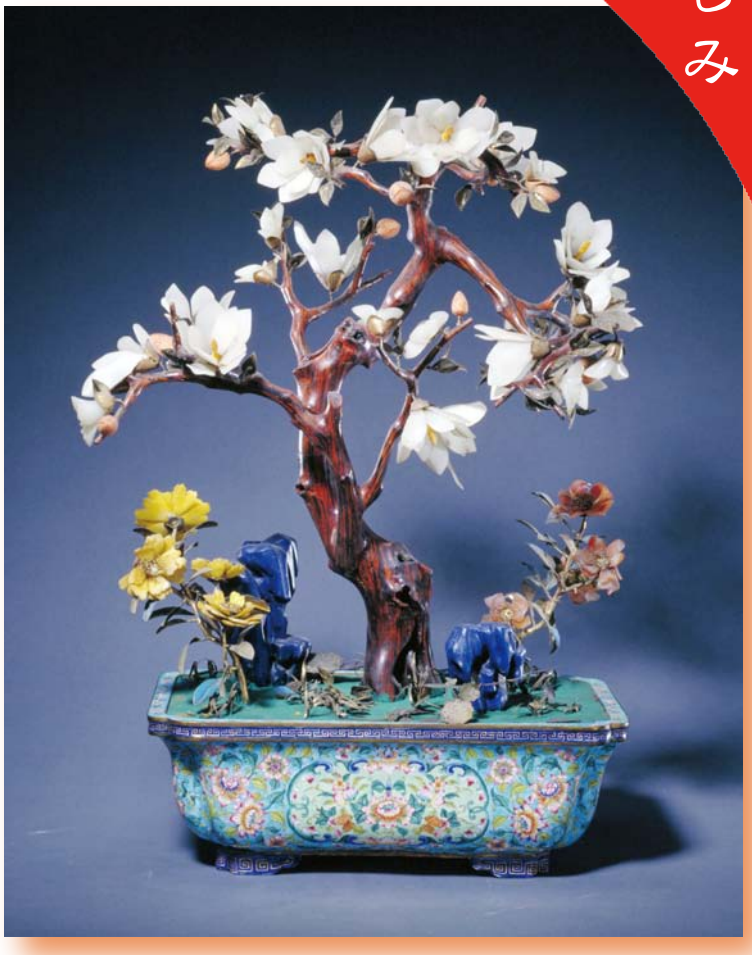
清・光緒年間　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 12］

珍妃は光緒帝の寵妃で、光緒 20 年（1894）に妃に封ぜられた。光緒 26 年（1900）北京で義和団事件が起ると、慈禧皇太后（西太后）は光緒帝と西安に逃がれる前に珍妃を井戸に沈めた。翌年、皇貴妃に追封された。后妃たちが用いた印はその位に応じてデザイン、サイズ、素材などが細かく定められていた。

《画琺瑯長方盆玉蘭盆景》／ガラス製ハクモクレン盆栽

清　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 61］

ハクモクレンの白い花びらはガラス製で、花の造形は写実的である。樹下にはガラスの菊やラピスラズリの庭石を添える。ハクモクレンは伝統的な吉祥の花で作例は少なくないが、本作は技巧と構成の点で最も優れる。宝玉による盆栽の永遠のみずみずしさと華やかさ、そして吉祥の寓意は、宮廷文化にとって不可欠な一要素である。



《銅鍍金人拉馬鍾》／ペルシア風天幕つき人馬像からくり時計

イギリス　18 世紀（清）　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 49］

真珠や宝石をちりばめたペルシア風の天幕の下にはシュロの木があり、馬丁が銀製の駿馬をひく。台座中央の時計の文字盤の左右に楕円形の情景窓がある。ネジを巻くと、窓の中のカーテンが開き、空を飛ぶ龍の姿が回転パノラマで表示される。この精巧に作られた大型の時計は、故宮所蔵のイギリス製時計の名品の一つである。

《鍍金点翠鑲珠石鳳鈿子》
（ときんてんすいじょうじゅせきほうでんす）

／清代の后妃が慶祝の日にかぶる髪飾り

清・嘉慶年間　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 87］

鈿子は、満州貴族の婦女が皇帝の登基（天子の位に即位すること）、大婚、后妃の冊封を除いた慶祝の日にかぶる一種の冠帽（髪飾り）である。『道・咸以来朝野雑記』によれば「婦女が礼装を着る時、頭上に帯びるもの」を鈿子という。この真珠を象嵌した鳳凰を飾る鈿子は、清代の后妃が用いたものである。

《乾隆妃古装像》軸
（けんりゅうひ　こ　そうぞう）

／乾隆帝の妃が銅鏡を見てかんざしをつける図

清　宮廷画家　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 79A］

乾隆帝の妃が銅鏡を見て真剣に頭の上に金のかんざしを挿している。藍の華服は、縁に刺繍、金の花文をつけ、宮中女性の服飾の仕立てが入念で華麗なことを現す。人物の顔を西洋画家の郎世寧（カスティリオーネ）が描き、服飾と背景を宮廷画家の金廷標が描いた合作と思われ、乾隆期の宮廷絵画の特色が出ている。

《金鏨古錢文指甲套》／金製爪カバー

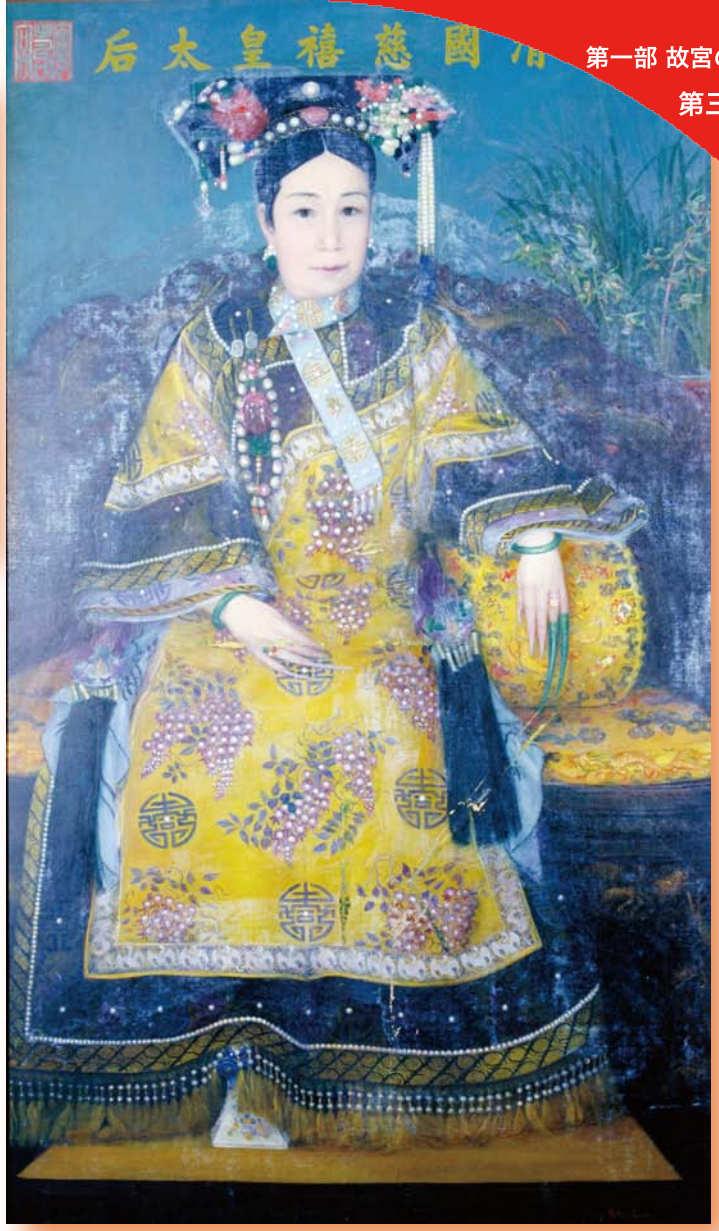
清　北京•故宮博物院蔵　［出品 No. 110］

爪カバーは、金片を指状に曲げて、根元から指先にかけて次第に細くする。根元は金銀の糸を編んだ細工による双連古錢文で飾り、指先は網状の連珠文を打ち出す。中国では古来から、女性の細い指に対して独特な審美意識がある。長い爪の保護とより細く見せる装飾のため、宮中の后妃たちが指にはめた独特な装身具。

《水晶玉柄五珠太平車》／水晶製のマッサージローラー

清　北京•故宮博物院蔵　［出品 No. 132］

太平車は、按摩器のことで、清代宮廷に見られる健康器具である。このローラーは５個の水晶と宝玉を連ね、左右に紫水晶、中間に茶水晶、瑪瑙、白水晶からなる。柄は白玉でできており霊芝雲文を彫る。軸には双龍の頭と竹の節飾りを施す。



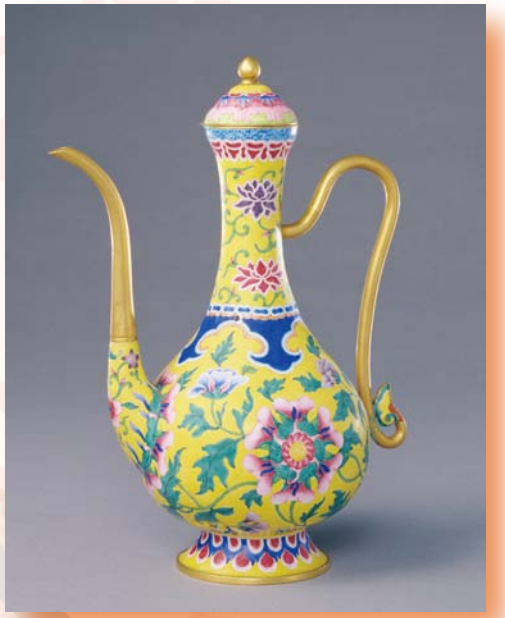
《慈禧太后便服像》／西太后の肖像

清　北京•故宮博物院蔵［出品 No. 111］

晩年の西太后を描いた油彩画。写実的で西太后の特徴をよく表している。皮膚は細やかに潤い、美容品を常用していたことを示し、また清末期の后妃の服飾制度が見てとれる。両手につけた長い爪カバーなどはその例である。アメリカの女性画家カール（Katherine A Carl）が描いたといわれる。

清朝宮廷の食卓再現

西太后をはじめ皇后や皇妃たちが用いた豪華な食器による清朝宮廷の食卓再現



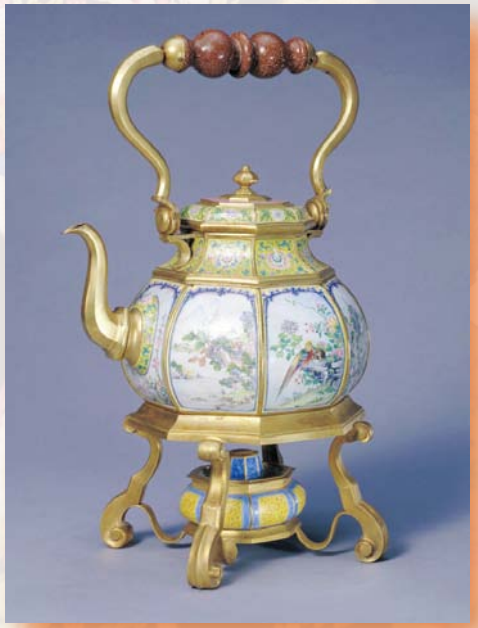
［中国国家一級文物（国宝）］

《画琺瑯花卉執壺》／酒器

清・嘉慶年間　［出品 No. 173］

北京•故宮博物院蔵

この酒器は皇帝専用の工房で作られたもので、「嘉慶年製」との文字がある。嘉慶初期の画琺瑯器（無線七宝）の代表作。国家一級文物に指定される名品である。



［中国国家一級文物（国宝）］

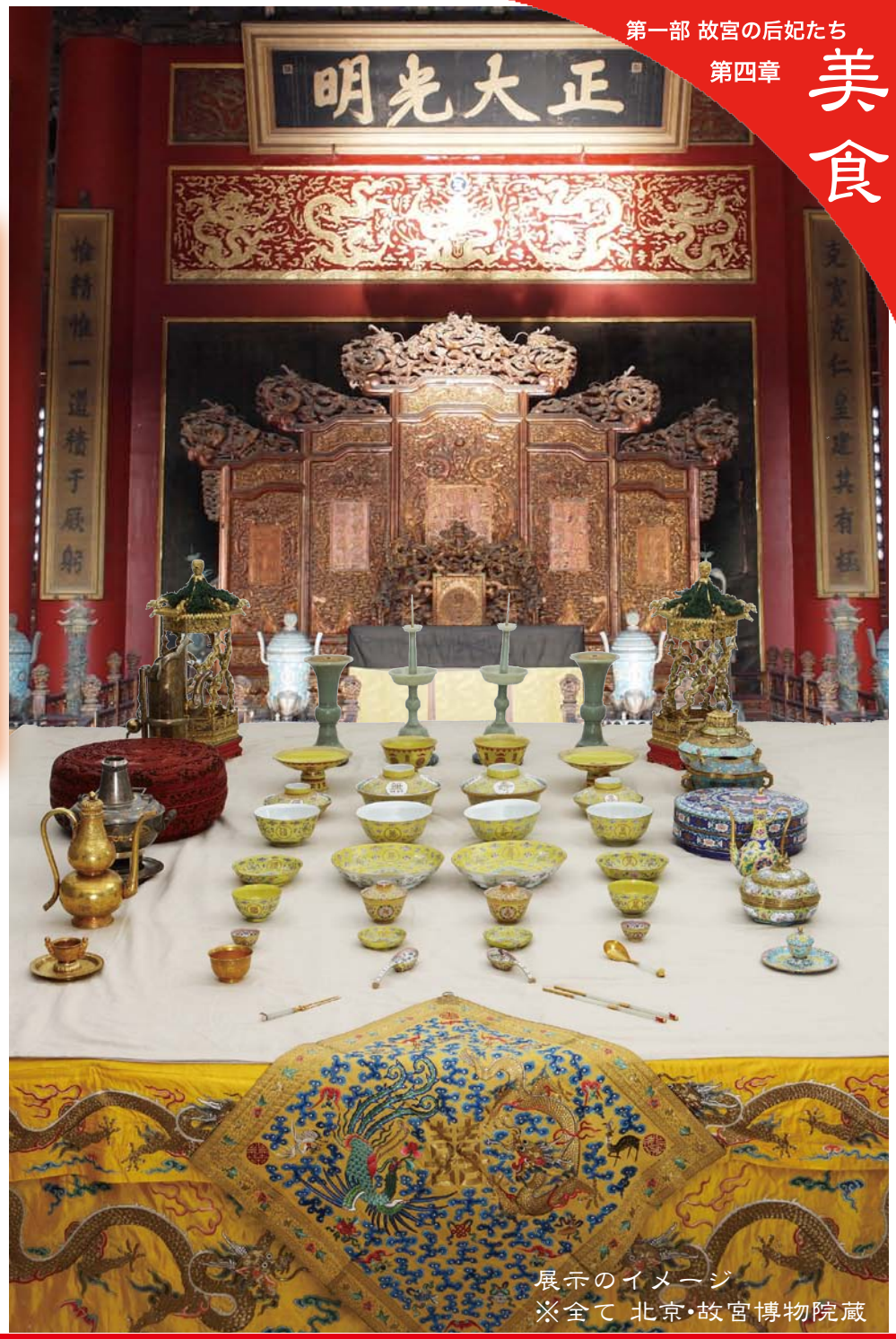
《画琺瑯八棱開光提梁壺》

／七宝で描かれた八角形の提げ手付き水注

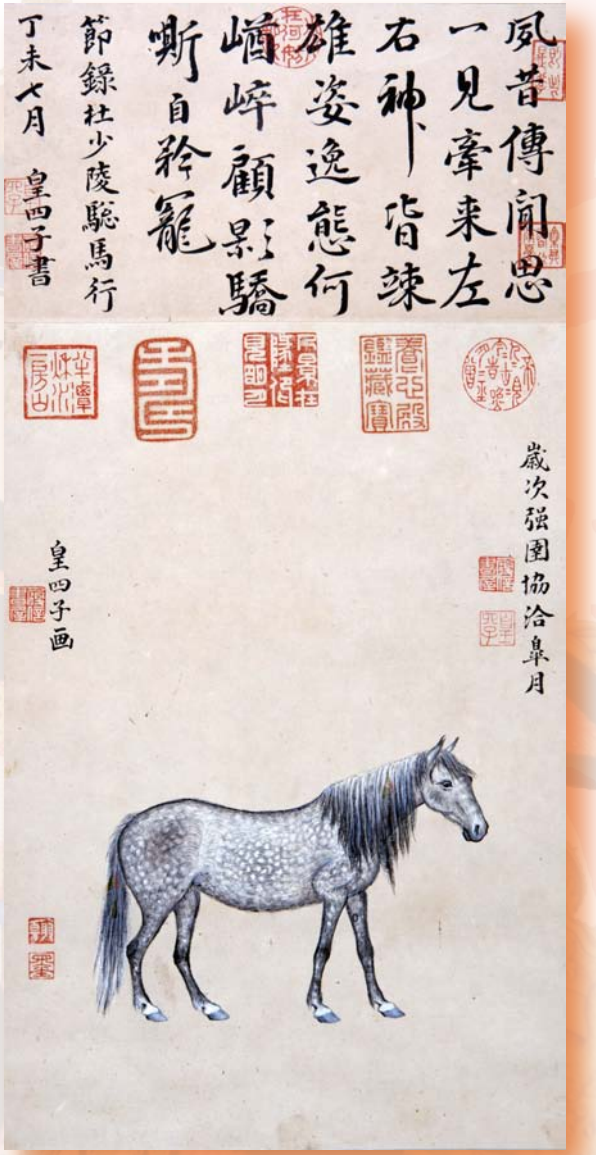
清・乾隆年間　［出品 No. 191］

北京•故宮博物院蔵

提梁壺の八角面の開光（飾り枠）に山水と花鳥図各４幅を交互に並べて描く。本作は、金属と七宝、ガラス加工が一体となった作であり、デザインは西洋式に倣うが図案と主題は中国の伝統的な山水花鳥画を描くという東西文化が融合した優品である。台座の中には油入れがあり、油を燃やし温めることができる。



展示のイメージ
※全て 北京•故宮博物院蔵



奕訢《馬図》軸

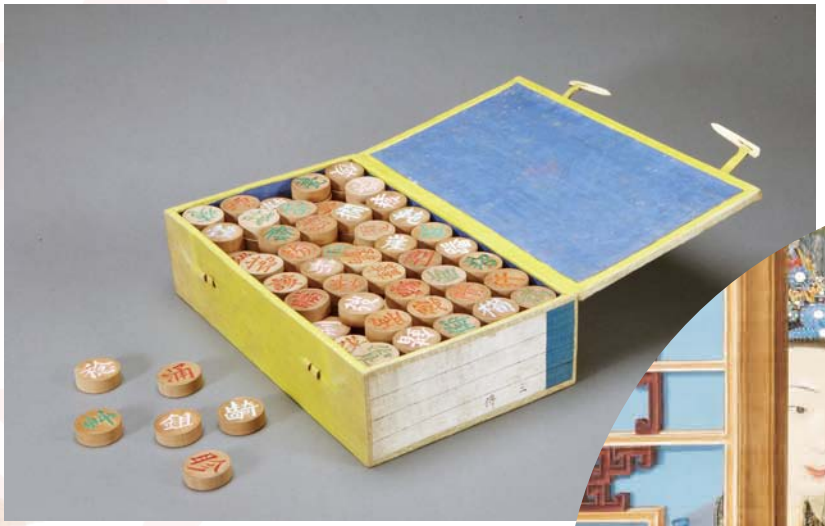
／17歳の咸豊帝が描いた自筆の馬の絵

清　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 214A］

溥儀習字冊《十三経集字》より《三伝》

／宣統帝溥儀の漢字パズル

清　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 212］



《十三経集字》は『易経』、『書経』、『論語』など13部の儒家の経典を色の異なる文字として駒に刻んだもの。皇子の学習のために用い、封建思想を学びながら皇子の興味をかきたて高めようと工夫された教材である。

《乾隆帝妃と嘉慶帝幼年像》

／乾隆帝妃と嘉慶帝の幼年像

清・嘉慶年間　北京・故宮博物院蔵　［出品 No. 204A］

本作は、乾隆帝の第15子、後の嘉慶帝の幼年時代の姿と母親魏佳氏、後の孝儀純皇后である。堂々たる華麗な清代中期の宮廷絵画であり、画風から判断すると肖像部分は西洋画家の郎世寧（カスティリオーネ）が描いたものである。

《杏黄緞 虎頭式 棉風帽》／皇子が着用した虎の帽子

清・同治年間　北京•故宮博物院蔵　［出品 No. 218］

綿入りの小虎帽は、杏黄色の緞子でできており、虎の眼•鼻•口などを絹糸で刺繍して、帽子の上の両側に虎の両耳をあしらう。両耳の間には黒の絹糸で王の字を刺繍する。子どもにとって暖かいばかりでなく、虎の強さと聡明さにあやかろうとの願いが込められている。

《幻術変小孩機器人》

／フランス製のからくり人形

19 世紀（清）　北京•故宮博物院蔵

［出品 No. 228］

《桃紅色暗花紬 小孩夾褲》／赤ん坊（皇女）用のズボン

清・同治年間　北京•故宮博物院蔵　［出品 No. 223］

［中国国家一級文物（国宝）］

《粉彩花卉凸三嬰戯瓶》／３人の唐子が遊ぶ瓶

清・乾隆年間　北京•故宮博物院蔵　［出品 No. 233］

瓶は３花弁式の口に、長い首、円い胴、円形の高台をもつ。瓶の首に捲かれた赤いリボンで遊ぶ３人の子どもが、粉彩で彩られた彫刻技法（堆塑）で作られている。底裏の高台内は青花による「大清乾隆年製」の篆書款がある。喜慶太平を寓意する名品。